

2025度 JICA横浜 教師海外研修募集要項

応募締切
5/20 (火)
必着



撮影: 2024年度教師海外研修(パラグアイ)同行者

研修テーマ: **多文化共生・移民**

海外研修先

パラグアイ共和国

海外研修期間

2025年7月26日(土)～8月8日(金)

対象

神奈川県および山梨県の教員



主
後

催: 独立行政法人国際協力機構 横浜センター (JICA横浜)
援: 文部科学省、外務省



教師海外研修とは

国内事前研修、海外での現地研修、国内事後研修で構成される国際理解教育・開発教育実践のための研修プログラムです。訪問する国の歴史、現状、人々の生活、国際協力などについて学び、国際理解教育・開発教育の実践者育成と推進を目的としています。



JICA横浜2025年度教師海外研修について

(1) JICA横浜教師海外研修テーマ「多文化共生・移民」

中南米は多様な文化や価値観が存在する地域です。なかでもパラグアイは、混血が進んでいる一方、グアラニー先住民文化が残り、ドイツなどの欧州や日本等からの移民を通じて、独自の多様性が築かれています。日本人のパラグアイ移住は1936年から始まり、現在は7,000人ほどの日系人(日本国籍者および2・3・4世含む)が暮らしていると言われています。かつて新しい土地へ移住した人たちの体験、代々子どもたちへと受け継がれてきた語りや史料、そして今を生きる人々の生の声から、日系人の困難、喜び、誇り、活躍などを学ぶことは、多文化共生の在り方を考える糸口になり得ます。日系人を含むパラグアイの多様性の事例から、日本の、地域の、学校の、教室の多文化共生について考え、実現に向けた手だてとしての教材、発信方法・手法について考えていただきます。



国際理解教育・開発教育に関心があり、概念や手法を学び、授業等を通して児童生徒と一緒に異文化、多様性、人権などについて考えてみたい方にオススメです！

(2) 学校内および地域での推進

本研修の学びをいかして学校内および地域において国際理解教育の推進、子どもたち育成の推進をしていただくことをねらいとします。



所属校内での報告会・研修会や、地域での勉強会・部会などにおいて、積極的に本研修での学びを生かし国際理解教育・開発教育の推進を行い、次代を担う子どもたちの育成のすそ野を広げていただくことを期待しています！

事前研修とは？

派遣国の基礎知識、健康/安全管理、教材研究の方法などを学び、海外研修と帰国後の授業実践のための準備を行います。



事後研修とは？

パラグアイでの海外研修全体を振り返りつつ、そこで得た体験や資料を基に、教材、発信方法・手法について考えます。

現地研修では…

JICA海外協力隊活動現場、現地の学校視察、日系人との交流や、現地マーケットでの素材収集等を行います。





研修日程

注)海外研修の日程は諸事情により前後する場合がありますので、ご了承ください。

研修名	場所	日程	内容
国内事前研修①	JICA 横浜	2025年6月21日(土)	・本研修概要・派遣国・視察先の説明 ・海外研修準備(渡航手続き、健康/安全管理、素材収集の方法)
開発教育教員セミナー (基礎編)	JICA 横浜	2025年7月5日(土)	・開発教育の基礎概念等 ・教材研究の方法
国内事前研修②	JICA 横浜	2025年7月12日(土) 13日(日)	・開発教育のワークショップの体験 ・教材研究の方法 ・前回参加教員との交流
海外研修	パラグ アイ	2025年7月26日(土) ～8月8日(金)	・開発途上国の現場体験 ・教材研究のための素材収集
国内事後研修①	JICA 横浜	2025年8月30日(土)	・研修先で得た素材の整理
国内事後研修②	JICA 横浜	2025年9月13日(土)	・教材、発信方法等の検討
実践授業	所属先	2025年9月 ～2025年12月	・各所属先における授業実践等
開発教育教員セミナー (応用編)	JICA 横浜	2026年1月17日(土) 18日(日)	※実践授業報告も行います。 ・開発教育のワークショップの体験 ・参考事例発表
最終報告	※	2026年2月～3月	・研修全体の学びの共有、報告

※各自で10分程度の動画を作成いただくことを想定しています。



応募資格 次の条件をすべて満たす方

- ① 神奈川県および山梨県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等に勤務する教員(公私問わず)、教育委員会の職員であること。
- ② 授業もしくはクラブ活動等で国際理解教育・開発教育・多文化共生を実践されている方、もしくは、帰国後、本研修の経験を実践に活かせる方。
- ③ 所属校内および地域において、積極的に報告会・勉強会などを開催して国際理解教育・開発教育の推進を行っていただける方(帰国後の校内報告会または研修会の実施は必須)。
- ④ 本研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される事前事後の研修、海外研修および報告会の全日程に参加可能であること。
- ⑤ 所属校の校長の推薦があること。
- ⑥ 海外研修に際し、健康上の支障がない方(既往症や治療中の疾病、傷病がある場合、応募前に主治医と十分協議すること。場合によっては、医師の診断書を提出していただくことがあります)。
- ⑦ 教材づくり等、他の研修参加者と協働して研修に取り組めること。
- ⑧ 今後、JICAが実施する開発教育支援事業に積極的に参加、協力可能なこと。
- ⑨ 過去に、本研修(海外研修)に参加された経験のないこと。



参加費用

参加者の個人負担とJICAの負担は下記のとおりです。

	個人負担経費	JICA負担経費
国内研修 JICA横浜での 研修、報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・食費 ・パスポート取得にかかる費用 ・予防接種代(必要に応じて) ・その他個人的費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA横浜での宿泊費(朝食費用含む)※3 ・査証代 ・海外旅行傷害保険加入費 ・自宅最寄駅・バス停からJICA横浜までの往復交通費(経済路線)
海外研修	<ul style="list-style-type: none"> ・食費※1 ・宿泊費※1 ・追加保険の加入費用 ・その他個人的費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・往復渡航費※2 ・自宅最寄り駅・バス停から羽田空港もしくは成田空港までの往復交通費(JICA規定による路線) ・羽田もしくは成田空港および海外での空港使用税 ・現地視察に必要な費用(車両備上など)

- ※1 現地での食費と宿泊費は合わせて13万円程度(過年度パラグアイ研修実績より)尚、金額はあくまで目安ですので、変動する可能性があることをあらかじめご了承ください。
- ※2 海外研修に係る宿泊施設および往復航空便は、安全面等を考慮しJICAで手配決定します。
- ※3 宿泊の必要性をJICAが認めた時。満室の場合は別途調整いたします。



募集人数

10名程度(応募書類および面接にもとづき選考を行います。)



応募方法および応募締切

所定の応募用紙に必要な事項を漏れなくご記入の上、JICA横浜開発教育教員向け研修運営事務局宛にメールにて応募書類を添付して送付ください(容量合計は5MB以内としてください)。

応募書類送信先メールアドレス:jica-yokohama@mediasoken.jp

2025年5月20日(火)23時59分必着

※どうしてもメールでの送付が難しい場合は郵送も受け付けます。

応募用紙及び写真は返却いたしませんので、予めご了承ください。
応募用紙はJICA横浜のホームページからダウンロードしてください。

<http://www.jica.go.jp/yokohama/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



選考方法

一次選考(書類審査)と二次選考(面接審査)にもとづいて候補者を選抜します。

- ① ~5月下旬:一次選考(書類審査)結果通知予定
※合否によって連絡時期が異なることがあります。
- ② 6月初旬:二次選考(オンライン面接)実施予定(日時は当方から指定)
- ③ 6月中旬:二次選考(面接)結果通知予定
※合否に関する照会は一切お答えできません。



報告書の提出等

帰国後は2週間以内に海外研修報告書(所定様式:A4・4頁程度)を提出していただきます。
実践授業をJICA横浜のスタッフが参観させていただきますので、予めご承知ください。

授業またはその他の教育活動での実践を報告書(所定様式:A4・10頁以内)にまとめ、帰国後5ヶ月以内に提出していただきます。また、2月初旬に実施予定の報告会で実践授業の報告発表をしていただくとともに、すべての事例をホームページに掲載し、一般公開いたしますので、予めご了承ください。

現地研修での訪問先（例）

訪問先	内容
JICA海外協力隊との意見交換会	現在活動中の協力隊員から活動の様子を聞き、現地への理解を深める
日系アイデンティティーセンター	エンカルナシオン日本人会内にて、日本人移住の歴史や日系人の現状を知り、多文化共生実現へのヒントを得る
日系移住地訪問	日本人移住者や日系人との交流、ホームステイを通して、移住者たちの生の声から日本人移民についての理解を深める
現地学校訪問 ※現地事情で小中高すべての校種には訪問できない可能性があります	協力隊員が配属されている学校などを訪問し、子どもたち、教職員との交流から多文化共生について学ぶ
障害者の社会参加促進プロジェクト	「障害と開発」の視点から多文化共生をより広義に捉える
トリニダード遺跡	「世界一人が少ない世界遺産」を訪れ、パラグアイの歴史を学ぶ
パラグアイ伝統工芸品事業	JICA基金活用プロジェクトで研修を受けたつくり手との交流やニャンドゥティ作り体験を通して伝統文化に触れる
ホエナウ市「道の駅」	JICA研修に参加した視聴が設置した施設から、日本とパラグアイの関係を理解する
社会経済開発に向けた宇宙計画管理プロジェクト	国際協力（技術協力）の現場を視察し、広義での多文化共生を考えるきっかけとする



注意事項

- ① 年次休暇・研修（職専免）等研修中のサービスの扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。
- ② 本事業は研修であり、JICAにおける労災保険等の適用はありません。
- ③ 所属先の業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の業務上災害に対する補償措置を行ってください。尚、JICAは出張命令依頼書等の発出を行いません。
- ④ 研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者の妨げになると判断された方、また、定められた活動に参加できない方については、国内研修中、海外研修中を問わず、研修対象者としての資格を失うことがあります。研修中に研修対象者としての資格を失った場合、キャンセル料等（交通費、旅費、保険料等）は、当該者の全額負担となります。特に海外研修中においては、帰路の旅費も当該者の負担となりますのでご了承ください。
- ⑤ 現地の社会状況などの理由により、研修内容の変更、研修日程の延期・中止の場合もございます。ご了承ください。

過去の参加者の声



日系人のジュース工場視察の様子

想像以上にたくさんの「Nikkei(日系)」「Japones(日本人)」という言葉に出会った。また、我々を異質な外国人ではなくメンバーの一員として受け入れてもらっているような印象を受けた。これまで数カ国を訪れたことがあるが、このような感覚は初めてだった。この研修を通して自分の価値観や指導観を見直すことができた。

海外研修の学びから、児童に伝えたいことがたくさん生まれ、国際理解教育や開発教育、多様性への理解や物事の見方の練習などにつながる、授業の種を得ることができた。今後の教員人生に、継続してこれらの種を授業の形にしていきたい。



授業見学の様子



現地でのふりかえり会の様子

現地でのふりかえりミーティングの他に、移動中や食事中にその日の出来事について話が広がり、情報の整理になることはもちろん、気が付かなかった視点も知ることができた。視察先から学ぶこと以外にも、一緒に参加した仲間の経験してきたことや考え方からも多くの学びがあった。

2025年度 JICA横浜 教師海外研修

お問い合わせ

株式会社メディア総合研究所
JICA横浜開発教育教員向け研修運営事務局

TEL : 0120-441-172 FAX : 03-6665-8852

E-mail : jica-yokohama@mediasoken.jp

住所 : 〒107-6032

東京都港区赤坂1-12-32アーク森ビル32階



※参加申し込みにおいて入手した個人情報、JICAが行う開発教育支援事業、研修やセミナーのイベント情報提供、協力依頼等のみに使用いたします。

※業務の一部を株式会社メディア総合研究所に委託しています。

